

永 生 病 院 だ よ り



KEIRYOKAI

# ゆるめあ

▶ 理事長のあいさつ

▶ 8月のイベント報告  
夏祭り

▶ 当院リハビリテーション科紹介

▶ 編集後記



## ● 病院理念

信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

## ● 基本方針

良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません  
患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします  
医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

vol. 3

## 理事長のあいさつ

病院の外部評価である日本医療機能評価取得に挑戦し、6月21日認定書を取得しました。全職員一丸となって直前の数ヶ月は、不眠不休で頑張りましたが、やれば出来るという実感を全員でもつことが出来ました。

医療の質の向上が強く叫ばれる状況のなか、外部評価を受審することによって、病院のあるべき姿が明確になるとともに、各人の医療人としての姿勢を見直すとても良い機会になりました。

地域においてより信頼される病院になるため、自己研鑽の努力を惜しまず続けていきたいと思えます。

理事長 森 伊津子

## ご報告

### 地域の皆様と共に、 開かれた医療サービスを目指して・・・

### 8月21日、土曜日。 永生病院夏祭りが開催されました。



今年で10回目となった夏祭りですが、すっかりおなじみとなった忠八太鼓の演奏や、抽選会・バザー・花火大会に加え、今年はマツケンサンバに挑戦しました。介護療養型の患者様と職員が毎日一緒に練習を重ねた踊りは、皆様に楽しんで頂けたのではないかと思います。

今後も、地域の方々との交流を深めていけるよう努力していきたいと思えます。

夏祭り実行委員会

## 永生病院リハビリテーション科について

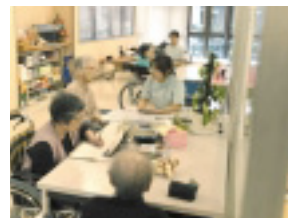
当院リハビリテーション科は、理学療法・作業療法共に施設基準Ⅱの承認施設であり、現在理学療法士5名、作業療法士4名、アシスタント1名の計10名で、入院及び外来患者様の治療及び、訪問リハビリテーションの業務にあたっています。主な対象疾患は、脳血管障害いわゆる脳卒中の後遺症、関節リウマチ、骨折・変形性関節症等の整形疾患、その他パーキンソン病、リンパ浮腫等です。リンパ浮腫に対する理学療法は、国内でも実施施設が少なく、新しい分野として取り組んでいます。

リハビリテーションの理念は「全人的な復権を目的とする」と言われていますが、当院においては、まず分かり易い患者様の日常における生活動作(ADL)に主眼を置き、患者様がリハビリの訓練室で懸命に頑張ってきたような動作(いわゆる出来るADL)を、病棟において普段行っている動作(しているADL)へと移行していき、最終的に、障害があっても在宅で「その人らしい人生を送ることができるようになる」ことを目標として取り組んでいます。

具体的には、介護療養型病棟に専属の理学療法士・作業療法士を配置し、看護師、介護職員と共にチーム医療の観点から、患者様の入院生活における日常生活全般に密着した実用性のあるADL訓練を実施することで、家庭復帰を促しています。このような体制は、回復期リハビリテーション病棟においては当然ですが、当院の介護療養型病棟におい

ては、長期間入院されている患者様も自宅における生活を考えた取り組みを行っています。

いずれにしても入院患者様に限らず、訓練室で頑張ってきた機能が、実用的に活用されてこそリハビリテーションの意味があり、今後もこの目標に向かって、リハビリテーション科だけでなく多職種を含めた、病院全体のチーム医療として取り組んでいきたいと考えています。



## 関節リウマチのリハビリテーション

関節リウマチの治療体系は、①薬物療法、②リハビリテーション、③手術療法、④ケア、の4本柱で構成されています。

関節リウマチは、関節の痛みとともにこわばりが生じるために、ついつい患部を動かさなくなってしまう。しかし、このことでかえって関節が固まってしまって後々の機能障害が大きくなってしまいます。そこで、リハビリテーションでは、運動機能の維持・改善、障害の予防、生活指導、術前術後のリハビリテーションなど広範囲にわたる治療を要求されており、重要な位置を占めています。これらの訓練指導にあたっては、関節リウマチの特異性を考え長期展望に立った関節保護やエネルギー節約の指導を行うことも重要です。

そこで、リハビリテーションにおける理学療法について、以下に述べたいと思います。

### 関節リウマチの理学療法

ここでは、理学療法の中でも物理療法、運動療法、装具療法について説明します。

#### 運動療法

運動療法は、①筋骨格系の機能低下の予防および改善、②疼痛の軽減、③こわばりの除去および軽減、④末梢循環および心肺機能の改善、を目的として施行されます。

実際の治療は、一人一人の患者様によって異なりますが、症状に合わせて運動と安静をバランスよく保ちながら行うことが重要です。運動にしても、どのような運動をどのように（方法）、どの程度（量）を行うか、そしてその後どの位の安静をとる必要があるのかということを理解しながら行っていくことが必要になります。

**上肢の運動:** 上肢の各関節は荷重関節でないため、筋力増強訓練よりも関節可動域訓練に重点が置かれます。しかし、他動的な可動域が拡大しても自動的な可動域の拡大が認められないようではADLの改善には結びつきません。こういった場合には、筋力増強訓練をとり入れた運動を行うことが必要となってきます。



**下肢の運動:** 下肢の各関節には体重を支持するという機能が求められます。そのため、下肢の運動では筋力増強訓練が中心となってきます。患者様の中には「歩いていないと寝たきりになる」と思い込み、関節の痛みをおして長距離を歩いたり、階段を何回も昇降するといった間違った運動を行ってしまう場合があります。このような関節破壊を助長するような行為を控え、正しい運動を指導することが大切になってきます。

#### 装具療法

関節リウマチの補装具は、破壊の進行した関節および炎症関節に対し、①関節の安静を保ち炎症を鎮静化する、②関節の変形の進行予防、③関節の免荷や不安定性に対する支持性の向上、などを目的に処置されます。しかし関節リウマチでは病変が全身の関節に及び、その結果生じる腫脹、疼痛、変形などの症状は個人によってかなりの違いがあります。また、こういった個人差に加え、患者様の中には症状が進行する方が多くいるため、画一的な装具では関節変形に対処することは困難です。そこで、個々の患者様の身体状況や社会生活・日常生活にあわせて作成していきます。

#### 物理療法

関節リウマチに対する物理療法の目的は、①疼痛の軽減、②筋 spasms の寛解、③結合組織の伸展性の改善、④血行・局所栄養改善、⑤浮腫の改善、などが挙げられます。

物理療法とは、身体の病的状態を、温熱や寒冷などの外的物理エネルギーを利用して正常状態に戻そうとする治療手段です。物理療法は、症状緩和の補助手段や運動療法の前処置などとして、しばしば施行されます。

### 関節リウマチ治療に使用される代表的物理療法

#### 電気療法

超音波療法、極超短波療法、低周波療法 など

#### 光線療法

赤外線療法、紫外線療法、レーザー光線療法

#### 温熱療法、水治療法

ホットパック、パラフィン浴、過流浴、気泡浴、温泉療法、寒冷療法 など

#### その他

牽引療法 など

### リンパ浮腫の理学療法

リンパ浮腫とは種々の原因でリンパの流れが滞り腕や足にむくみが現れる病気で、ひどくなると皮膚が硬くなり象皮病という状態にまで進行します。乳癌や子宮癌の手術後に現れることが多く、そのため女性に多い疾患です。「ガンが治ったんだからがまんして。」「命に関わることは無いから。」等の理由で軽視されがちな疾患であり、また、発症年齢が幅広く美容上の問題が大きいことから、密かに悩んでいる方が多いのも事実です。また、一度発症すると完治することが無いのも大きな問題の一つとなっています。

当院ではこのリンパ浮腫に対して①用手的リンパドレナージ、②圧迫療法、③圧迫下での運動療法、④スキンケア、の4つを中心としたリハビリテーションを行っており、一人一人の患者様に合った治療プログラムや、治療用具を提供しています。

裏面に  
続きます。





### ①用手的リンパドレナージ

浮腫のある腕（または足）に溜まったリンパをそれ以外の場所に誘導し、流れをよくします。



### ②圧迫療法

弾性包帯やストッキング、スリーブ等を用いて圧迫することによって、浮腫の増大を防ぎ治療効果を促進します。



### ③運動療法

圧迫した状態で軽い運動を行うことによって、圧迫を行った部分のリンパの流れをさらに促進させます。



### ④スキンケア

リンパの流れが悪くなった部分は感染を起こしやすく、それによって蜂窩織炎という合併症を起こした場合は熱が出たり、浮腫がさらに増大するので普段から十分なスキンケアを行う必要があります。

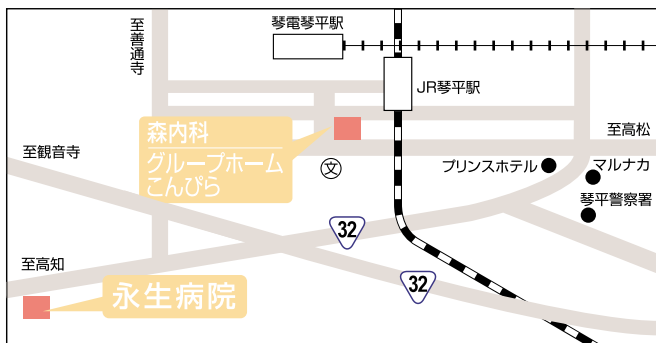
これらの治療方法は侵襲が無く、専門的な知識が無くても患者様自信で行えることが最大のメリットですが、手技が複雑で覚えにくいことや包帯等の治療用具について保険が利かないことなどが欠点として挙げられます。現状ではリンパ浮腫を治療できる施設がほとんど無く、適切な治療を受けられない方が多くいる状況ですが、今後、この疾患に対する認知度が高まればさらによい治療環境が期待できると考えています。



## 編集後記

猛暑も過ぎ去り、ようやく肌寒い季節となりました。今回は当院のリハビリテーション科について掲載しておりますのでご一読下さい。今後も様々な病院情報や皆様のお役に立つ情報を満載していきたいと思っております。皆様からのご意見なども取り入れ、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

医療サービス改善委員会



永生病院 130床（一般病棟 40床・療養型病棟 90床）

### 医療法人圭良会

- 永生病院 香川県仲多度郡仲南町十郷221-3 Tel 0877-73-3300
- いこいの森（訪問看護ステーション・訪問介護） Tel 0877-73-3700
- いこいの家（通所介護） Tel 0877-73-3718
- いこいの郷（居宅介護支援事業所・福祉用具貸与事業所） Tel 0877-73-3655
- 森内科 香川県仲多度郡琴平町167 Tel 0877-73-4188
- グループホームこんびら（痴呆対応型共同生活介護） 香川県仲多度郡琴平町167 Tel 0877-73-0811

永生病院広報誌「ゆるぬき」第3号  
発行元：医療法人圭良会 永生病院  
編集者：医療サービス改善委員会  
住所：〒769-0311 仲多度郡仲南町十郷221-3  
TEL:0877-73-3300  
FAX:0877-73-3202  
永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>  
eメールでの各種お問い合わせは [keiryokai@eisei-hp.or.jp](mailto:keiryokai@eisei-hp.or.jp)  
発行年月日：平成16年9月17日